

トルコギキョウの 1 ~ 2 月出荷作型で下位節間を長くするハウス換気法

トルコギキョウの 1 ~ 2 月出荷作型では、日中のハウス内平均気温を 30℃ 確保するハウス換気を行うと、節間長が長く、初期生育が促進され、草丈が確保できる。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 工藤陽史)

研究のねらい

トルコギキョウの 1 ~ 2 月出荷作型では、定植後の茎伸長が悪く草丈の確保が難しい。生育初期 (定植後 1 ヶ月程度) の夜温は比較的容易に確保できるが、日中の温度は換気の設定温度や時間などで変わる。そこで、日中の換気温度がトルコギキョウの初期生育に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

- 1 夜温が 15℃ で、昼温を 25℃ および 30℃ で栽培すると、昼温 25℃ より昼温 30℃ が草丈の伸びが大きく、節数も増加する (図 1)。
- 2 平均発蕾日は、昼温 25℃ より昼温 30℃ が早くなる (表 1)。
- 3 ハウスの換気温度が 35℃ は 25℃ に比べて、生育初期の草丈、節間長、茎径および節数が優れる。(図 2、表 2)。

普及上の留意点

- 1 日中のハウス換気温度を 35℃ にする期間は、抽だい 4 節 (本葉展開 7 節) 程度までとする。その後も 35℃ で換気すると、抽だい 6 ~ 7 節 (本葉展開 9 ~ 10 節) で葉先枯れが発生する可能性があるので注意する。

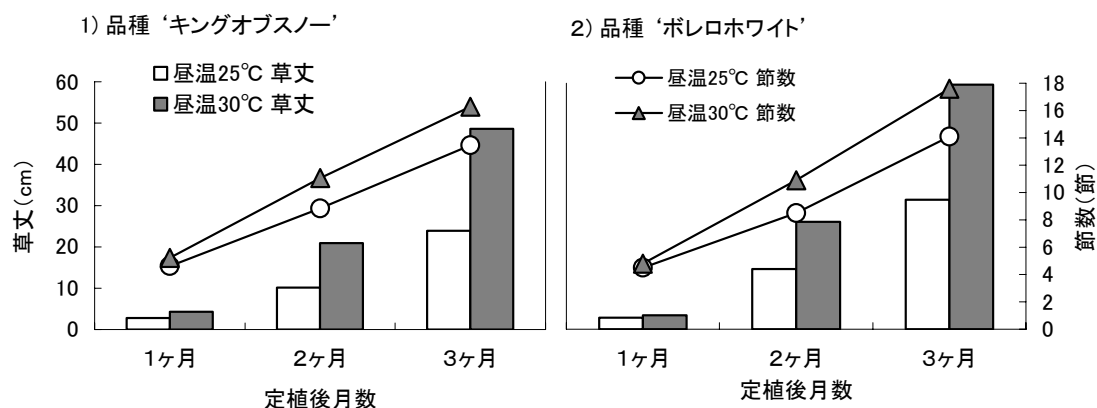


図1 昼温が初期生育に及ぼす影響

注) 1. 耕種概要 2008年9月22日にコンテナ(L56cm×W26cm×H15cm)に12株を定植した後、自然日長型の恒温ガラスハウス(生理生態解析温室)で行った。夜温は15°C設定。

表1 昼温が発蕾日に及ぼす影響

昼温	‘キングオブスノー’	‘ボレロホワイト’
25°C	1月5日	1月6日
30°C	12月14日	12月23日
有意性 <sup>2</sup>	**	**

注) 1. 耕種概要 図1と同様

2. <sup>2</sup>F検定 \*\* 0.1%水準で有意

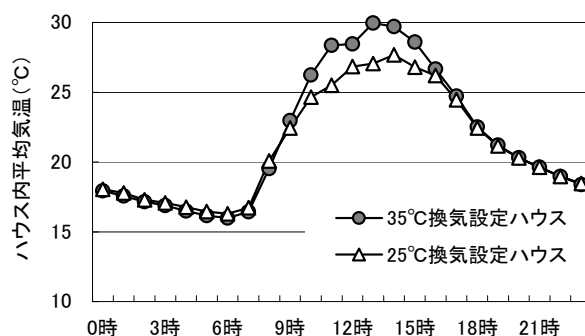


図2 ハウス換気温度によるハウス内平均気温の推移(2008.10.3~11.6)

表2 ハウスの換気設定温度が初期生育および発蕾日に及ぼす影響

品種	試験区	草丈 (cm)	茎長 <sup>z</sup> (cm)	茎径 <sup>y</sup> (mm)	節数 (節)	節間長 <sup>x</sup> (cm)
‘キングオブスノー’ (早生)	25°C換気	11.7	8.9	2.2	8.1	1.7
	35°C換気	22.3	18.0	2.9	9.0	3.0
	有意性 <sup>w</sup>	**	**	**	**	**
‘ボレロホワイト’ (早生)	25°C換気	17.5	14.8	2.4	9.1	2.4
	35°C換気	30.1	25.9	3.0	10.2	3.6
	有意性	**	**	**	**	**

注) 1. 耕種概要 ガラス温室に株間12cm×条間12cmの7条中1条抜きで2008年9月25日に定植、ジベレリン処理なし

2. 調査日 11月7日(定植43日後)

3. <sup>z</sup>主茎長、<sup>y</sup>抽だい開始節から1節上の節間を測定、<sup>x</sup>茎長/(節数-3)

<sup>w</sup>F検定 \*\* 0.1%水準で有意、NS 有意性なし